2026年５月14日

各　位

会 社 名　　ＨＹＵＧＡ　ＰＲＩＭＡＲＹ　ＣＡＲＥ株式会社
代表者名　　代表取締役社長 黒木 哲史
（コード：7133 グロース市場）
問合せ先　　取締役最高財務責任者 大西 智明
（TEL．092－558－2120）

業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2026年２月13日に公表いたしました2026年３月期通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．2026年３月期連結業績予想と実績値の差異(2025年４月１日～2026年３月31日)

（単位：百万円、％）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり連結当期純利益（円　銭）
前回発表予想（Ａ）	12,194	1,000	964	664	93.15
実績値（Ｂ）	11,983	816	776	501	70.38
増減額（Ｂ－Ａ）	△211	△183	△187	△162	－
増減率（％）	△1.7	△18.3	△19.5	△24.4	－
（ご参考）前期連結実績(2025年３月期)	9,984	1,051	1,022	719	101.12

２．差異の理由

今回の差異は、きらりプライム事業において、2025年９月に「リージョンプライム」案件として、約２億円の契約を締結し売上および営業利益を計上する見込みだったものが、会計監査人からの指摘により会計上の収益認識の観点から売上を計上することができなくなったことによるものであります。

当契約は、2025年９月に当社が運営している定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを提供する住宅型有料老人ホーム「プライマリケアホームひゅうが」と同様の老人ホームを運営するための契約であり、土地の選定から施設の建設、運営するための各種手続きや運営ノウハウを提供する総合アドバイザリー契約であります。しかし、建設のための土地及び建物の着工、運用ノウハウの提供など契約における履行義務を充足したと認識し売上の計上を検討したところ、会計監査人より契約内容の文言において収益認識に関する会計基準における所有権移転の条件を満たしていない旨を指摘されておりました。

当件に関しては、2025年９月より協議を継続しており、当社側としては他社様に同様の契約と事例があり売上計上されていることや、役務の提供が事実上完了しクライアント側も債務の認識をしていることを確認している旨などを主張しておりましたが、会計監査人の見解としては売上を認識することは認められず、当期の差異となりました。

昨今の物価高騰などによる影響により工期予測が難しいことから、今後当件に関する状況が確定し業績予想の修正が必要と判断された場合は速やかに開示いたします。

以　上